

ばれっと

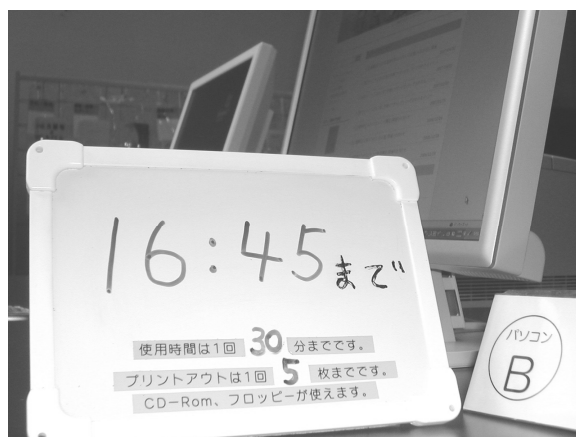
2007
6月

No.94

昨年1年間でサポセンは
47,881名の方々にご利用いただきました。*詳しくはp. 6で

■ 目次 ■

- P. 2~3 すぽっとらいと 精神障害者自助グループ
「心のネットワークみやぎ」
- P. 4 サポセン日記
- P. 5 ミニ サポダス
サポ本を読もう！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト 年間報告書から見る 平成18年度のサポダス！
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など



～ サポセン窓口風景 ～
パソコンスペースを利用中です。
インターネットは1回30分まで。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

精神障害者が、地域で自立して生活できるように。そんな思いをこめて活動をしている団体があります。今回は“精神障害者自助グループ「心のネットワークみやぎ」”の会長 佐川美紀さん、岩槻利克さん、渡辺学毅さんの3名にお話を伺いました。



左から佐川さん、渡辺さん、岩槻さん

■心のネットワークみやぎとは？

春の空気が柔らかい4月末。サポートセンターの研修室では、精神障害者自助グループ「心のネットワークみやぎ」の総会が開かれていました。精神障害者がもっと自分の力で生活できる社会へ。そんな社会を目指して発足したこの団体は、今年で活動11年目を迎えます。身体障害・知的障害と並んで三大障害といわれる精神障害は、外見が何も変わらないために障害を持っていることが周囲にはわかりにくいといえます。そのぶん理解を得るのが難しいため、偏見や差別が多いそうです。精神障害者への風当たりが強いなか、どのようにして団体が立ち上がり、どのような成果を生んでいるのでしょうか。

■当事者で団体を立ち上げたい

団体が立ち上がるきっかけは、国見台病院の中にある「四季の会」という患者の自助グループでした。この団体で年に4回、患者が集まってお楽しみ会を開いていたことから始まります。ここは国見台病院のみの患者の会でしたが、宮城県内には名取や志津川など、各地に同じような活動をしているグループがあります。そういった県内の患者のグループともネットワークを促進しようという動きが起こりました。

当時、精神障害者が生きにくさを語り合うための場として「宮城県精神障害回復者クラブ交流会」という県内各地の病院の患者が集まる交流会がありましたが、この交流会の開催にあたっては、保健士や医師、ケースワーカーなどが準備をしてくれていました。しかし「今度は精神障害者だけで県内に団体を作ろう」と障害を持つ当事者たち自らが立ち上がり、平成8年、心のネットワークみやぎが発足しました。

これができるきっかけとなったのが、「全国精神障害者団体連合会（全精連）」が2年に1度開催する全国大会です。第1回が東京、第2回を横浜で開催し、第3回を平成7年9月に今度は仙台で開催することになり、実行委員会と共に当事者の方たちも一緒に準備にあたりました。ここで「自分たちもやればできるんだ」と自信がつかれたことが大きな力になったそうです。

■心から話せる場ができた

発足する年に開催した心のネットワークみやぎ第1回設立大会では、約70名の参加者が集まりました。準備から運営までを当事者で行ったことで、以前より話しやすい環境が生まれたといえます。それから毎年1回、宮城県内の障害をもつ方や、その周囲の方が集まる大会を開催しています。

ここでは日常の生活をする上で話しにくいことや、悩み、気になっている事などについて分科会形式で話し合います。テーマは、例えば「家族との関係」「就労」「薬について」「恋愛と結婚」など多岐にわたります。これまでに同じ悩みを持つもの同士で話す機会がなかったのが、参加者からは「うれしかった」「楽しかった」という声が寄せられました。

「当事者の方は物静かで、積極的に発言することが少ないと思っていましたが、もっと多くのことを考えているのだということがわかりました。また、この場を通じて自分はひとりぼっちではない、という実感を持ってもらえたことが良かったことのひとつです」と佐川さんは話します。同じ悩みを抱える人々が集い、ここで友達ができたり、これまで以上に活動の幅が広がったりしたことが大きな成果です。

団体紹介

精神障害者自助グループ 「心のネットワークみやぎ」

宮城県内の精神障害者の組織化を押し進め、自らの自立心を育成し、社会人として生活できるよう、相互援助の実践に努めることを目的に活動している。

<団体連絡先>

〒981-0922
仙台市青葉区鷺ヶ森1丁目37-8
TEL&FAX : 022-271-3944



■活動を周囲へ知ってもらおうきっかけ

年に1度の大会以外の活動としては、毎月1～2回程度の定例会を持っています。ここでは大会に向けた準備の他、「れいんぼう」という団体の機関紙の発行・編集作業を行っています。活動の拠点として、以前は宮城県精神保健福祉センターを利用していました。しかし、この施設が仙台から古川に移転してしまっただけで、他に活動できる施設を探すことになりました。そこへ友人の紹介でサポートセンターがあることを知って、使うようになったそうです。

サポートセンターは、主に貸室や交流サロン(※)を利用しています。交流サロンを使うことで、いろいろな団体と知り合う機会ができたそうです。例えば、偶然に佐川さんの学生時代の友人と会ったこともあると話します。そこでお互いの活動について話すことができ、心のネットワークみやぎの活動について「そういうことをやっているんだ」と理解してもらいました。他の団体と話す機会があることで、今まで内に閉じていた気持ちが、外に開かれていったといいます。



※交流サロンとは…
少人数の打ち合わせや事務作業などに予約なしに無料で使えるフリースペース。

■理解のある社会を目指して

当事者以外の人に理解をしてもらった機会は他にもあります。学校などへの講演がそうです。自分たちの体験談を話すことで「当事者との付き合い方が分かった」「学校の授業では聞けない話を聞くことができた」など、ためになったという声が多く寄せられました。

精神障害は外見から判断しにくい障害なので、何を考えているかわからないと言われる。障害を持っている人が関係する事件が起こると、精神障害者は怖いというような誤認が広がったり、当事者が生活するグループホームに対して「危ないんじゃないか」と思われることもあるそうです。

「昔よりは理解が進んできたとは思いますが、まだ偏見が根強いと感じています。障害を持っていない人たち、全ての人に理解してもらえるような活動をしていきたいですね」と団体のみなさんは話します。例えば、現在は当事者間の情報交換や交流の場となっている大会ですが、今後は一般市民にも参加してもらえるような会にしたいという思いがあるようです。

いつでも誰もが障害を持つ可能性があります。だからこそ、誰もが障害について関心を寄せ、自分のこととして考える必要があるのではないのでしょうか。「障害を持たない人たちへ理解が広がった社会は、きっと優しい世の中になると思います」と佐川さんはおだやかに話します。

誰もが生活しやすい、優しい社会へ。そんな社会の実現を目指して、心のネットワークみやぎの活動は、これからも続きます。

(担当：本田 ふみ)

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに見えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ
～ パソコンスペース ～

市民活動団体の事務作業や 情報収集に役立つ「パソコンスペース」

●パソコンスペースってどんなところ？

市民公益活動に関するさまざまな活動で、無料でパソコンをご利用いただけるスペースです。1階情報サロンに作業用のパソコンが2台、インターネット用のパソコンが1台あります。インターネットの利用は30分単位の受付になります。また、パソコンとLANケーブルをお持ちいただければ、5階の交流サロンの「インターネット接続コーナー」で、1時間インターネットを利用できます。それぞれのサービスをご利用の際は1階事務局でお申込をお願いします。

1階のパソコンにはWordやExcelが入っているので、チラシ・ニューズレター・企画書づくりや会計の作業も行うことができます。用紙をお持ちいただければ、常設してあるプリンターで1回5枚までデータのプリントも可能です。パソコンでイベントチラシをプリントし、印刷作業室で大量印刷、そのまま「骨プロ」※の申込をすれば、イベントの広報作業をサポセンの1階だけで行うことができます。

一度にご利用いただける人数に限りがありますので、お互い声を掛け合いながら、より多くの方がパソコンを使えるようにしていきましょう。

※ 市民公益活動団体のイベントチラシを市の中心部に立地する9つの公共施設に配架するサービス。受付窓口はサポセンです。



パソコンで作業中の「仙台筆筒を伝承する会」伴野さん（左）とサポセンスタッフ高橋（右）

使っていた人に突撃インタビュー！

—— 5月2日に作業パソコンで企画書を作っていた「仙台筆筒を伝承する会」の伴野さんと阿部さんにお話を伺いました。

スタッフ いつもどのようなことにパソコンを使っていますか？

伴野さん 企画書、報告書、チラシなどの作成に利用しています。

スタッフ 利用頻度はどれくらいですか？

伴野さん 忙しいときは毎日利用しています。
阿部さん パソコンが無かったらネットカフェに行ったり、パソコンを買うしかありませんが、サポセンでは市民活動であれば無料で利用できて便利です。

スタッフ パソコンスペースのメリットは何ですか？

伴野さん サポセンスタッフや他の利用者との距離が近いため、交流が生まれやすいことです。また、企画書の書き方など分からないことがあればスタッフにすぐ質問することができます。これは他にないメリットだと思います。

—— 上手にスペースを使いこなしているお二人でした。

(担当：高橋 陽佑)



ミニサポダス

◆サポセンの利用状況を毎月テーマを変えてお知らせしています！

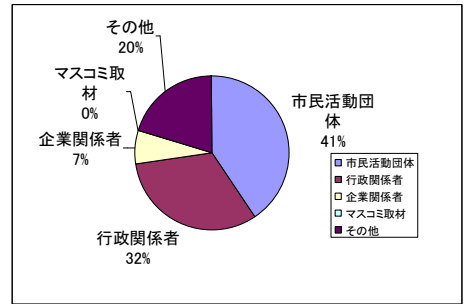
■ようこそ、サポセンへ！～視察・見学でサポセンまるわかり

サポセンには、県内外から視察や見学にくる人や団体が毎月あります。今回は平成18年度に視察や見学に訪れた人数をお知らせしながら、どんな方が来館されているかをご報告します。

視察や見学の目的は、機能や活用の仕方を見学したい、また自分たちの地域にもこんな施設を作りたいと参考のために見学にいらっしゃる団体や自治体などがほとんどです。

このサポセンは、公設民営型の市民活動支援施設として全国で初めて設置されたこともあり、先進事例として視察・見学されるようです。仙台市近郊の町や遠くは韓国からもいらっしゃいました。また大学からの依頼により、市民活動やNPOに関する授業の一環で見学に来られることもあります。

●視察・見学団体の種別



いらした方はサポセンの機能や情報収集の多さに驚かれますが、第三者からのサポセンへの質問や感想などから私たちスタッフも学ぶことが多くあります。たくさんの方においでいただき、サポセンを知ってもらう機会を作り、さらに使い心地のよい施設にしていければと思います。(担当：伊藤 浩子)

●月別視察・見学件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
件数	4	3	2	6	0	7	8	8	7	5	7	12	69	6.3
人数	56	3	2	14	0	34	59	49	43	12	47	22	341	31.0



たりないピース

著者：宮崎あおい&宮崎将
発行：小学館
定価：1,500円（税抜）

サポ本を読もう！

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。

—いまから二十年後、あなたはどんな暮らしをしているのでしょうか？ 本文より—

本書は、インド・コルカタを訪ねた妹 女優の宮崎あおいと兄の宮崎将の日記を通して、二〇二五年の地球が持続可能な社会であるために「たりないピース」は何かという問いを投げかけます。豊富な写真を織り交ぜながら、若い兄妹の目に映ったコルカタの現状が、みずみずしい感性と率直な言葉でつづられ、読み進めるにつれて、「貧しさ」や「教育」「フェアトレード」ひとりひとりができること」について読者も一緒に感じ、考えていくことになるでしょう。

地元のNPOの活動や、現地で活躍している日本のNGOも紹介され、個人の取り組みとNPOの可能性について考えるきっかけを与えてくれます。

二十年後を生きてすべての人に読んでもらいたい一冊です。

担当 太田 貴

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

主に環境資源を対象とした市民活動団体の情報を得たいと思って来ました。詳しく団体について知ることができました。これからも利用したいです。(情報サロン利用者)

情報サロンにある団体情報ファイルは、県内外で活動する市民活動団体、約5,800の情報がストックされており、ご自由にご覧いただけます。情報収集にぜひどうぞ。

空調の風の当たり方によって感じ方が変わってくる場合もありますが、空調でお気づきの点がありましたら、調整いたしますので事務局までお声がけください。

少し寒かった時がありました。

室温が高いように思います。

アラカルト

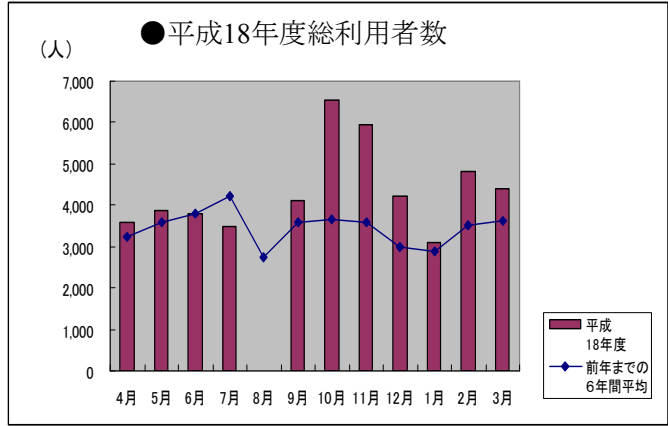
◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

年間報告書から見る 平成18年度のサポダス！

平成18年度はサポートセンターにとって、移転という大きな仕事を成し遂げた記念すべき一年でした。平成18年9月1日に本町から現在の一番町へ移転したサポセン。激動のこの一年を数字で振り返ってみたいと思います。

■ 初来館者、増える！

平成18年度のサポートセンター利用者総数は**47,881人**でした。（利用票の提出から集計）
グラフで見るように、移転後はこれまでの平均を上回る皆さんにご利用いただきました。増加の要因はいろいろと考えられます。



① 一番町という好立地への移転

初来館者がぐ～んと増えました。移転してから、ふらっとサポセンに立ち寄り情報収集する姿をよく見かけます。1階に配置している団体パンフレットがあつという間なくなるのです。また、スタッフも受付など日常業務を通じて新たに会える団体が多くなったと感じています。まちなかに移転したことで、より一層集まりやすい場として活動拠点をサポセンにという団体もあるのでしょうか。

② 「市民活動シアター」の新設

地下にオープンした市民活動シアターは、研修室タイプの貸室とは異なり、シンポジウムに限らず音楽・演劇・パフォーマンスなど多目的に利用できる場です。そのため、定員も最大で167名となり1イベントあたりの利用者数が多いのが特徴です。10月、11月の伸びはシアター利用によるものです。

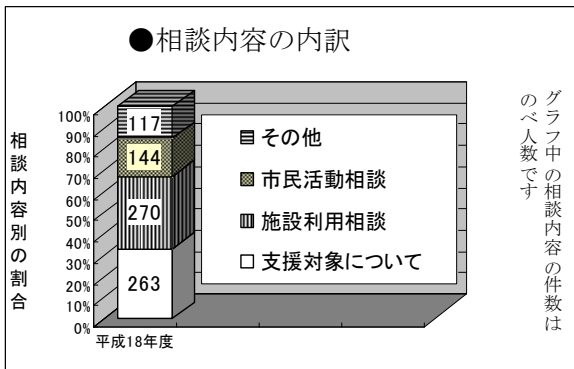
■ 相談するならサポセンで

移転に関する仕事中心の1年でしたが、そんな中でも窓口での相談に地道に対応しました。

相談件数は、**784件**。特徴的なのは、例年はあわせて4～5割程度の「施設利用相談（施設の趣旨・機能に関する相談）」と、「支援対象についての相談（初来館者に向けて市民活動とは何かをお話しする）」の割合が移転の影響で全体の6割以上を占めたことです。

この1年は、1999年のサポセン開館の年に次いで施設趣旨について、そして市民活動についてじっくりと利用者向き合ってお話できた年だったのではないかと実感しています。また、窓口相談のほかに、「市民活動立ち上げ運営相談」や「協働相談」など、個別相談の機会も別事業で提供しました。

今後も、より多様な市民活動に関する相談に段階的に対応し、頼れる相談窓口を目指して努力していきたいと思えます。



■ 着々と団体の情報を蓄積中

サポセンに持ち込まれ掲示された情報は年間**3,417件**。月平均でも約300件ということになります。情報はサポートセンターにとって大切な財産です。もちろん旧サポセンにあった情報は、ひとつ残らず持ってきました。そして、ご来館した方がすぐに手にとれるよう1階にまとめて配置してあります。それらの情報を含め、パンフレット、ニューズレター、掲載された新聞記事、活動報告書などがストックされた「団体情報ファイル」は、いまや**5,859団体**。それぞれの団体の活動の軌跡がつまっている貴重な資料です。

移転とともに新たにサポセンを訪れる人も多くなりました。引き続き、情報の収集・発信に力をいれ、より充実した情報拠点を目指します。

今回、ご報告したのは、サポセン利用状況のごく一部のデータです。詳しい利用状況は、1階情報サロンに配置された、「平成18年度年間利用状況報告書」をご覧ください。

（担当：小松 州子）

イベント 紹介 6月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。ご希望の方はお問い合わせください。



開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
5/27	11:00 ～ 16:30	音の公園「自分イナイ」	市民活動 シアター	入園料 1,000円 (事前申込不要)	「自分イナイ」公園管理 組合	Tel 090-3367-6358 (橋元)
6/3、 6/17	13:20 ～ 16:30	シニア元気笑学校 3日(日)保健・理科・交流 17日(日)図工・社会・交流	セミナー ホール	1,000円 (事前申込必要)	シニア元気 笑学校	Tel 022-248-3765 Fax 022-248-3775 (渡辺源治) ※申込はFaxで
6/7～	18:30 ～ 21:00	簡単に出来るリンパマッサージ (フットケア)を学ぼう	研修室3	37,000円 (全6回・教材・ 認定申請料・テキ スト代含む) (事前申込必要)	JRFA足市場 (JRFA公認講 師 森照恵)	Tel・Fax 022-223-9023 携帯 090-7564-9831 (森)
6/13	19:00 ～ 20:30	デザインカUP講座／プロが 教えるプロのやり方・発想。	研修室2	1,000円 (事前申込必要)	メディア デザイン	Tel 090-3049-0613 Fax 022-224-5308 (千葉)
6/22	13:30 ～ 16:30	NPO法人の 「会計・財務相談室」	研修室4	無料 (事前申込必要)	NPO法人 エス・ピー 仙台	Tel 022-263-0382 Fax 022-262-6726 (上杉)
7/1 ～ 7/15	7/1 13:00 ～ 7/15 15:00	第38回広瀬川の詩と写真展	展示 スペース (5F)	無料 (事前申込不要)	広瀬川の 水質と景観を 守る会	Tel 090-9745-9681 (別府)
7/21	13:00 ～ 16:00	EMインストラクター養成講座	研修室5	3,000円 (全5回) (事前申込必要)	地球環境共生 ネットワーク	Tel・Fax 0223-24-3683 (菊地素博)
7/29	10:00 ～ 13:00	アリスのおしゃべり会 子宮筋腫内膜症の当事者のみ参加可	研修室1	500円 (事前申込不要)	アリス	Fax 022-268-4042 (中村) ※ レターケース No.145と明記

お知らせ

■ 募 集 ■

事務用ブースを使って活動力アップ！！

NPO法人や市民活動団体など、自発的で公益的な活動を行う団体で、事務所を必要としている方々に「事務用ブース」をお貸しします。

(専用の事務所を有しない団体に限ります。)

■使用期間：2007年9月1日～2008年8月31日

■募集数：5ブース(予定)

■設備等：机・イス・ロッカー(面積約4㎡)

■使用料：7,000円/月

*入居団体は、審査選考で決定します。

申込受付期間は

2007年6月14日(木)～6月26日(火)

9:00～21:00(日曜日は17:00まで)

■問い合わせ・申込み

仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010

FAX 022-268-4042



編集後記

サポセン利用者の方から最近「受付が変わったね」とよくお話をいただきます。受付だけでなく、情報掲示もご利用いただきやすいように、どんどん変わっていますのでぜひご覧ください！

(本田ふみ)

日差しが強くなってきた今日この頃。窓の外に目をやると、広瀬通の街路樹の鮮やかな緑。サポセン内にある植木も負けず劣らず、太陽の光をいっぱい浴びて新芽を出しています。

(千葉やす恵)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間 平日/午前9時～午後10時

日曜・祝日/午前9時～午後6時

● 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

5/30(水) 6/27(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

○貸 室

(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。

○ロッカー(有料)レターケース(無料)事務用ブース(有料)

○交流サロン

少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)

○情報サロン

市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の見学・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用インターネット閲覧(無料)

○印刷作業室

印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))
コピー機(1枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2007年5月21日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

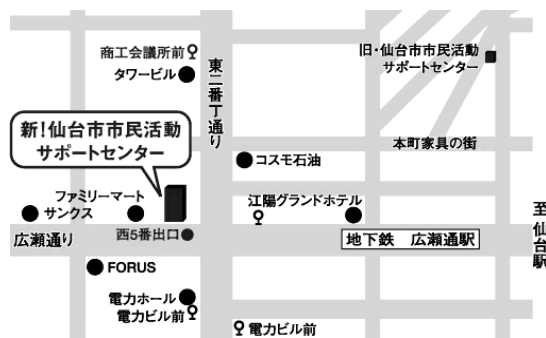
編集人：本田ふみ 千葉やす恵

★古紙100%使用再生紙を使用しています。

★大豆油インキを使用しています。



■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[バス] 商工会議所前下車徒歩3分

[地下鉄] 広瀬通駅西5番出口すぐ

□当施設に駐車場・駐輪場はございません。

お車や自転車でご来館される方は、

周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。